

地域ネットワークニュース

～平成25年12月の勉強会のお知らせ & 11月の勉強会報告～

第191回 地域ネットワーク勉強会

『子どもの運動発達は ‘遊び’がポイント』

講師：茨城県立こども福祉医療センター
作業療法士 川野辺弘子氏



12月4日(水)
午後7時～午後9時
神栖市保健・福祉会館内
参加費無料

「子どもは遊びを通して発達する」と言われています。“遊び”には味覚、嗅覚、視覚、聴覚、触覚といった様々な感覚が使われることに加え、“遊び”をきっかけに子どもの社会性やコミュニケーション能力、集中力などが育まれるからです。

発達の遅れや偏りのみられる子どもの多くは、感覚が敏感、または鈍感過ぎるために極端に手先が不器用で課題に取り組むのが遅かったり、スピーカーの音を嫌って逃げ出したり、椅子に座る姿勢が悪かったりします。こういった反応は「わがまま」「ルールを守れない」「集中力がない」と見られがちですが、実は脳内での感覚情報の整理がうまくできないことが要因であると考えられます。

今回は子どもの運動発達の基本から、脳から入るいろいろな感覚を整理する感覚統合の考え方など、“遊び”をキーワードにお話ししていきます。

※今回の勉強会は、『第6期発達障害療育者研修会』との合同開催となっています。この研修会は保育士、幼稚園・小学校教諭等、日々多くの子どもに関わっている先生方で、全5回すべてに参加可能な方を対象とした研修会です。詳しくはお問い合わせ下さい。

※事前申し込みが必要です。別紙申込書もしくは電話にてお申し込み下さい。

※「第6期発達障害療育者研修会」の申込書で、既にお申し込み頂いている方は申し込み不要です。

申込・問い合わせ先：神栖市社協 地域福祉推進センター 担当：三浦 電話 0299-93-0294

第190回 地域ネットワーク勉強会報告 講師：茨城県発達障害者支援センター

『子どもの発達段階と発達障害』

大野真裕氏センター長／臨床心理士)

11月20日開催<参加者88名>

発達障害は一見しただけではその特性や苦勞が分かりにくく、親の育て方や本人の努力不足などと誤解されやすい障害です。また、障害特性もさまざまのため、その人の状況に応じた理解と支援が必要となります。

■発達障害の児童・生徒の支援をすすめるために・・・

本人の能力、障害特性を理解し、生活上の困難さを把握し、その特性に応じた配慮や工夫が必要となります（※本人が日常で困っていることや日常生活で起こるトラブルを障害特性に関連付けて理解し、具体的な対応や工夫を一緒に考える）。

■一貫した支援の引き継ぎや関係機関との連携の必要性

連携することの理由としては、発達障害の人の支援に関わる情報を共有し、発達障害の人への一貫した支援を確保する。また、関係機関相互の役割分担をしていきます。

■支援を考えるとときに気をつけること

苦手なところをなおすという発想は「×」、強みを生かす、自分でできるという自身をもたせるという発想は「◎」。

